

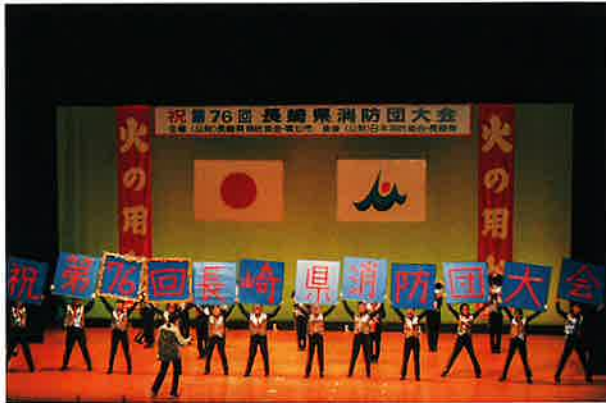


まとい

令和 6.3.28発行

第51号

第76回長崎県消防団大会（雲仙市）



長崎市消防出初式 第2会場 一斉放水

第25回全国女性消防操法大会（東京臨海広域防災公園）



第25回 全国女性消防操法大会

長崎県消防殉職者慰霊祭



雲仙市消防団出初式

令和6年度 全国統一防火標語

守りたい 未来があるから 火の用心

消 防 人

最高の栄誉に輝く各種表彰

おめでとうございませす

皆様方には長年にわたり消防業務に精励され、その業績を高く評価されて表彰されました。この栄誉の陰にはご家族のご理解、ご協力があればこそと存じます。心からお祝いを申し上げますと共に、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

春の叙勲

(令和五年四月二十九日)

秋の叙勲

(令和五年十一月三日)

瑞宝双光章

元長与町消防団団長 原田 成信

瑞宝单光章

元雲仙市消防団副団長 石本 茂美

元西海市消防団副団長 畷本 幹男

元平戸市消防団分団長 金子 勝美

元新上五島町消防団副団長

元小値賀町消防団団長 木村 光博

元佐世保市消防団分団長 大黒 清利

元長崎市消防団副団長 富永 直司

元佐世保市消防団副団長 西 勝則

元五島市消防団分団長 福本 文夫

元長崎市消防団分団長 宮本 實男

元佐世保市消防団分団長 向井 明利

元対馬市消防団副団長 森山 清志

元長崎市消防団副団長 安田 壽和

元南島原市消防団副団長 山口 和敏

山口 俊一

瑞宝单光章

元佐々町消防団団長 池田 新治

元西海市消防団分団長 鎌田 悟

元長崎市消防団分団長 川上 久幸

元佐世保市消防団副団長 古場 信行

元西有家町消防団分団長 近藤 利光

元新上五島町消防団副団長 明松 円

元長崎市消防団分団長 時津 穂積

元福江市消防団副分団長 中尾 安暢

元諫早市消防団副団長 松本 秀喜

元長崎市消防団分団長 宮崎 一俊

元佐世保市消防団副団長 迎 篤之

元雲仙市消防団副団長 吉岡 直行

元松浦市消防団分団長 吉田 満次

元佐世保市消防団分団長 吉村 敏男

元新上五島町消防団副団長 萬屋 利康

内閣総理大臣表彰

(令和五年七月一日)

安全功労者

総務大臣表彰

(令和五年七月十八日)

安全功労者

新戸町第1・第2婦人防火クラブ

消防功労者

雲仙市消防団副団長 川上 清記

消防庁長官表彰

(令和六年三月七日)

永年勤続功労章

対馬市消防団副団長 今村 純一

外四十一名

竿頭綬

新上五島消防本部・新上五島消防団

県民表彰

(令和五年十二月二十三日)

消防・防災功労(個人)

長崎市消防団副団長 鉄川 恵一

長崎市消防団副団長 山下 一正

元佐世保市婦人防火クラブ連絡

協議会会長 吉田 貞子

諫早市消防団副団長 野副統一郎

大村市消防団副団長 中嶋 祐介

平戸市消防団地区団長 近藤 力男

平戸市消防団地区副団長

前田 清

沓崎市消防団副団長

平田 勇

雲仙市消防団支団長

荒木 昭吉

雲仙市消防団支団長

松田 英房

南島原市消防団西有家地区副団長

川崎 宏幸

元佐々町消防団副団長

前田 和義

消防・防災功労(優良団体)

十人町1の組婦人防火クラブ

表彰旗 諫早市消防団

竿頭綬 沓崎市消防団

功績章 西海市消防団

功績章 波佐見町消防団

功績章 長崎市消防団副団長

功績章 森 孝幸 外十八名

功績章 南島原市消防団副団長

功績章 穂山 二雄 外四十三名

功績章 勤続章 佐世保市消防団副団長

功績章 山口 建藏 外百二十七名

功績章 竿頭綬 (無火災)

功績章 長崎市消防団(第十四分団、第

功績章 二十四分団、第四十三分団)、佐世

功績章 保市消防団第二十五分団、島原市消

功績章 防団(第六分団、第七分団)、松浦

功績章 市消防団(第二分団、第十六分団)、

功績章 南島原市消防団(深江地区第六分団、

口之津地区第四分団)、新上五島町消防団(上五島地区奈摩第一分団、新魚目地区立串分団)

感謝状

退職市町長

前波佐見町長

一瀬 政太 様

退職消防団長

前長崎市消防団長

佐々木眞登己 様

前島原市消防団長

本田庄一郎 様

前大村市消防団長

山浦 弘之 様

前平戸市消防団長

森 能範 様

前沓崎市消防団長

岩永 章 様

前西海市消防団長

濱上 學 様

前時津町消防団長

峰 善行 様

前東彼杵町消防団長

有川 末好 様

消防事務担当者

前諫早市総務部危機管理課

吉田賢一郎 様

前諫早市高来支所地域総務課

山崎 大輔 様

前諫早市飯盛支所地域総務課

南條 洋史 様

前雲仙市総務部市民安全課

卜部 直樹 様

前雲仙市地域振興部地域振興課

田中 弘 様



精続章(金・銀) 対馬市消防団本部副団長 築城 慎一 外六百二十六名

感謝状(一号~四号) 前五島市消防団分団長 浦田 富吉様 外九百五十九名 (以上令和六年消防出初式)

第七十六回長崎県消防団大会

令和五年六月十日、第七十六回長崎県消防団大会を雲仙市のハマユリックスホールにおいて、開催しました。

大会には、受章者、来賓、県内消防団等、一般参加者を含め、あわせて約五百五十名の参加がありました。

消防団大会は、県内の消防団員が一堂に会し、消防防災に功績のあった方々の功績を称えらるとともに情報交換を行うことよって、消防団員の士気の高揚と消防防災意識の一層の啓発を図り、消防団の活性化に資することを目的としております。

消防協会総裁の大石知事は、表彰を受けられる方々へのお祝いの言葉と、日頃より昼夜を問わない消防団活動に対し、深く敬意を表し、感謝を述べられました。

式典においては、叙勲の披露、知事による表彰の伝達、消防団活動協力事業所の表彰、県民表彰の披露、県消防協会会長による日本消防協会長表彰の伝達、永年の無火災消防団の表彰、退団された消防団長への感謝状の授与などがありました。

特別有功章 平戸市消防団分団長 木田 直仁 外二百四十八名

有功章 松浦市消防団分団長 崎田 広則 外六百五十二名

表彰状 佐々町消防団副分団長 橋本 大悟 外十一名

(以上令和五年度長崎県消防団大会)

前雲仙市地域振興部地域振興課 前田 雅廣 様

前新上五島町総務課消防保安室 浜田 新吾 様

これに対し、受章者を代表して新上五島町消防団の吉田利行団長が、今後とも、市民、町民の安心・安全のため努力を惜しまない旨の謝辞を、熱意を込めて述べられました。

後半の部では、「第四十六回九州地区消防職員意見発表会」において最優秀賞を受賞された松浦市消防本部の西遼太氏による意見発表「聞く力で安心を」、地元雲仙市消防団小浜支団の中村有二氏による活動発表がありました。

また、アトラクションとして、雲仙ジュニアブラス〜Best Smiles〜による演奏が披露されました。そして、地元雲仙市消防団の川上团长から「消防人の団結のもと郷土を災害から守り、県民の信頼と負託にこたえる」との大会宣言がありました。

結びとして、次回開催市である彦根市消防団の安川团长が「消防団は、地域防災の要として、住民と協力して災害の防除に万全を期する」と、力強く決議表明され、大会は盛会のうちに終了しました。

第二十五回

全国女性消防操法大会

令和五年十月二十一日、東京都内の東京臨海広域防災公園において、第二十五回全国女性消防操法大会（消防庁・（公財）日本消防協会主催）が開催されました。

この大会は、地域防災力の要として

住民から厚い信頼を得ている各都道府県の女性消防隊（女性消防団員を含む）の代表が一堂に会し、消防の基本となる「消防操法」の技術を競うべく二年に一度開催されるものです。

本年は、長崎県代表として、西海市女性消防隊が出場しました。

残念ながら入賞は出来ませんでしたが見事なチームワークと日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮し、敢闘賞を受章しました。

出場者の皆さん並びに応援の方々、大変お疲れ様でした。

なお、優勝は、熊本県の八代市本都女性消防隊が連覇を果たしました。

第二十五回全国女性消防操法大会に出場して

西海市消防団 本部団員

椿 ちひろ

（操法大会一番禺）

私たち西海市女性消防団は、十月に東京都で開催された第二十五回女性消防操法大会に長崎県代表として初出場しました。

私たち西海市女性消防団は、市役所職員を中心に十代から六十代までの十七名で活動しています。普段は広報活動を主に行っているため、ポンプ操法大会出場にあたり、基本となる礼式訓練から行いました。

訓練は一月に開始し、三月までに礼式の習得を目標に掲げ、团长のご指導の下、訓練に励みました。

四月からは消防署の方のご指導で礼式訓練を行うとともに、軽可搬ポンプやホースなどの仕組み、扱い方の習得に取り組みました。

六月からは二チーム編成でポンプ操作、ホース保持、結合、延長などの部分訓練を行い、番員ごとの操法要領習得に向けて取り組みました。

七月は全体を通しての要領習得に取り組みました。この頃から各方面団員の方に練習中のアドバイスやホース巻き等、練習をサポートしていただきました。月末には初めての放水訓練を行い、百秒を超えるタイムで標準タイムには程遠い結果となりましたが、ここ

からがスタートだと思い練習を重ねました。

八月からは、放水訓練を繰り返し、練習の度にタイムが縮まり、自分たちの成長を感じるようになりました。

月末には、前回出場の南島原市女性消防団の皆様と合同訓練を行いました。練習内容や大会に向けた貴重なアドバイスを沢山いただきました。次回からの練習に取り入れられました。猛暑の中、温かいご指導をいただき、本当にありがとうございました。

九月は出場隊を正式決定し、強豪・熊本県大会を視察することから始まりました。大会タイムや各番員の動きなど、自分達との差を知る良い機会となりました。この頃から佐世保市消防局東消防署の方のご指導を頂き、各番員の動きをより正確に訓練し、タイムも標準タイムを切れるようになりました。練習回数も週三回に増え、疲労が蓄積されていく中での練習となりましたが、声を掛け合いながら、また、頑張る仲間の姿に力をもらいながら、みんなで乗り越えることが出来ました。職場の方の応援も力になりました。

十月は消防署員の方に事前審査をしていただき、「減点項目をなくす」ことを目標にラストスパートをかけました。また、本番に備え、体調管理にも気を配りました。

東京では、会場のチェック等、入念な準備を重ねて状態を整えました。

大会本番前には、スローガンの「W E C A N D O I T !」（私たちは





絶対にやれる！」を合言葉に円陣を組み、結束力を高めて操法に挑みました。

結果は全体の十八位で目標としていた上位入賞には届きませんでした。チーム一丸となって長崎県代表として堂々と操法を披露できました。

最後にこのような素晴らしい大会に出場できたことは、私たちにとって一生の思い出であり、貴重な経験となりました。

大会までの期間で学んだことを今後の活動に繋げていきたいと思えます。

ご指導いただいた消防署の皆様、方面団の皆様、応援してくださった職場の皆様、支えてくれた家族や友人、地

域の皆様から感謝申し上げます。ありがとうございます。

全国消防殉職者慰霊祭

第四十二回全国消防殉職者慰霊祭が、九月十四日、新橋にあるニッショーホールにおいて、しめやかに行われました。

今回の慰霊祭は、従来と近い形で、約三百五十名の参列者のもと開催されました。

式典では、秋本日本消防協会会長の式辞のあと、岸田内閣総理大臣、鈴木総務大臣及び遺族代表等が、新しく祀られた三柱を含む五千七百八十七柱の御霊に追悼のこたばを捧げられました。

その後、参列者の方々による献花が、厳粛のなかに行われました。

長崎県消防殉職者慰霊祭

令和五年十一月十一日、長崎県消防殉職者慰霊祭が、長崎県庁一階の大会議室において、県との共催により、厳粛に行われました。

この慰霊祭は、防災の任務遂行中に不幸にして尊い犠牲となられた長崎県内の消防殉職者並びに消防協力受難者の功績を称え、深く敬意と感謝を捧げるとともに、これらの方々冥福を祈り、在りし日の面影を慕い、志を同じ

くする者の範とすることを趣旨とし、ご遺族及び消防関係者等の出席のもと行われました。

会場には、明治時代からの消防殉職者三百八柱が祀られ、黙祷の後、県消防協会総裁の長崎県知事の式辞に続き、県議会議長、県市長会会長及び県消防長会会長の慰霊のこたばをいただき、その後、ご遺族や消防関係者などから献花が行われ、約百二十名の出席者が、ご冥福をお祈りしました。

最後に、県消防協会の川上会長が、お礼を述べるとともに、郷土の安全・安心を確保するため、一層の努力を重ね、消防活動に邁進することを誓いました。

第二十八回全国女性消防団員活性化石川大会

令和五年十一月十六日、いしかわ総合スポーツセンターにおいて、第二十八回全国女性消防団員活性化石川大会が開催され、全国各地から約三千名の女性消防団員が一堂に集まりました。

長崎県からは、長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、松浦市、壱岐市、雲仙市、南島原市及び川棚町の各消防団、事務局も含めて三十九名が参加しました。

大会は、「ようこそ石川へ 百万石の花と咲け！ 輝く女性消防団」をテーマとして、大いに盛り上がりました。

第二十八回全国女性消防団員活性化石川大会に参加して

佐世保市消防団機動分団
山口 和美 北野 稔子



この度初めて全国大会に参加させて頂きました。一度は行ってみたくて思っていた全国大会。コロナ禍で集まらない日々が過ぎ、やっと制限の無い全国大会！入団一年目と六年目で、ワクワクドキドキの出発です。

福岡空港に参集したあと、消防協会の方々のお世話を頂き、県内の団長さんや団員の皆さんと、会場である石川県へ移動しました。

到着してまず、金沢市の「大桑防災拠点広場」を見学させて頂きました。この施設は、東日本大震災を教訓に、来たるべき大規模災害に備えて、備蓄機能を有した一大防災拠点施設を整備されたものだそうです。

平時は市民の憩いの場として利用されていますが、災害発生時には、避難場所はもちろん、各被災地域への支援拠点として、さらには他県からの緊急支援隊や救済物資の集積基地としての機能を果たすとのことでした。

また、「かまどベンチ」や「マンホールトイレ」など、先進の機能が備えてありましたので、興味のあられる方は、ぜひ一度ホームページを覗いていただければと思います。

なお、この度石川県では、残念ながら本当に未曾有の大災害が発生してしまいました。

この場をお借りして、犠牲となられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

現在も沢山の人が避難生活を余儀なくされておられますが、当該施設がその機能を遺憾なく發揮して、お役に立っていると思うことが、せめてもの心の救いです。

話は戻りまして、その後は、兼六園や二十一世紀美術館を、回りましたが、雨の中笑いの絶えない観光となりました。

二日目、いしかわ総合スポーツセンターへ移動し、いよいよ大会の始まりです。

消防庁長官、日本消防協会会長、県知事や金沢市長の歓迎の挨拶のあと、今年選ばれた女性団員の活動発表がありました。

大阪府女性消防団の「おおさか救命体操」、山口市消防団の「さるさるサンバ」、野々市市消防団の「のってい体操」と、全国あちこちで応急手当や避難の仕方を教える方法に体操を取り入れて、子供から大人までわかりやすく活動されているのに、大変興味がありました。とても覚えやすく、楽しく参加できるのが印象的で、会場も盛り上がりしました。

その他にも、紙芝居やパネルシアターがあり、小松市消防団は「出前講



座」として令和四年八月の甚大な被災経験を踏まえ、簡易トイレや防災グッズ、新聞紙の活用方法の出前講座をされていて、とても感心しました。

実際に災害を経験しているのといないのでは、その危機感の差が全国各地にあるような気がします。

その後、昼食休憩を取りながらアトラクションが始まり、石川県金沢市の「加賀鳶（はしご登り）」が披露されました。実際に目の当たりにしてみると、まるで忍者のような怪業で、その迫力に大変驚きました。

続いて、タレントで日本消防協会の消防応援団員でもある山田邦子さんが特別ゲストで出演され、馳浩県知事との記念講演がありました。

最後に、舞台と会場が一体となって

シンポジウムが行われ「消防団とジェンダー観」という題材で意見交換会が行われたのですが、この中で若い女性団員さんから「男性も女性も同じ活動でいいのではないか」という、とても力強い意見がなされ、会場からも拍手が起こりました。

近年は男女平等で、男性社会であった分野にも多くの女性が進出していますが、体力的な面では平等にはいかなこともありません。

でも、日頃の活動や情報収集など、絶対的な体力が必要でない場面であれば、男性同様にできることをさせて欲しいという、女性団員の強い願い。

私達は、都会や地方で活動のやり方が違うのかなあと思っていました。女性団員が誰かの為に動きたいという情熱は全国共通なんだと感じました。消防団員である以上、できる限り「あれはできない、これはできない」と言わないで、何かできることがないかをみんなで相談し活動していけば、市民の方々に私達の心が届くのではないかと感じた石川大会でした。

最後になりますが、県内消防団の皆さんとの同行はとても楽しく、そして大変勉強になった三日間でした。

二年後は長崎大会ですので、県協会や大会委員の方々には、全国から来て下さる皆さんが、感動して帰って頂けるような大会を目指し、頑張ってくださいと思いますし、私達にも何かできることがあれば、ぜひ協力させて頂ければと思います。

この度は本当にありがとうございます。

第四十六回 消防職員意見発表会最優秀賞

「聞く力で安心を」

松浦市消防本部 西 遼太



人は常に不安を抱えて生きています。この誰もが抱える不安を私は「聞く力」によって安心に変えたい。私がこう思うようになったのはある救急現場での出来事がきっかけでした。

六十代男性、ストープでやけどしたとの通報により出動し、いざ現場に着いてみると傷病者の男性は少し興奮気味で、我々救急隊に対して開口一番にこう言いました。「お前たち何ばしに来たとか。」予想外な言葉に私は驚きました。その後も、「病院に連れて行くとか、行かんとか。」と自分がやけどしているにもかかわらず何度も男性は声を荒らげていました。刻々と過ぎる時間。なかなか説得に届いてくれない男性にもどかしさを感じる自分。どうにかわかってほしい私はこう言ってみました。「救急車が必要だから呼んだんですよ。」おもわず出てしまった言葉。もう取り返しはつきませぬ。結局男性は病院に到着する最後まで不満を口にしていました。

帰署中の車内で、私は深く後悔して
いました。自分の説得力のなさ、元々
話すことが苦手な私は自己嫌悪に陥っ
てしまいました。このままではいけない
。そう思った私は会話というものに
ついて調べることにしました。その中
で私の固定概念を大きく覆した言葉を
皆さんにお伝えします。それは「人は
話を聞いてくれる人に安心感を抱く」
というものです。会話は話す側と聞く側で
成り立っています。にもかかわらず、
私は「何か話さない」と話すことは
かりにとらわれ、聞くということの重
要性に気づいていませんでした。「話
を聞いてくれる」それはすなわち「相
手の話に共感し、否定をしないこと」
そうすることで人は安心感を抱くので
す。あの男性に言ってしまった言葉も、

男性にとつては突き放されたように感
じたかもしれません。私はこの言葉と
出会って考え方が変わりました。そし
てこの聞く力は、ある電話対応の場面
で効果を発揮したのです。

「夫が野良犬に咬まれた。市内の病
院を探してほしい。」という一本の電
話。その震えた声からは、焦りと不安
が伝わってきました。そこで、少しで
も安心してもらえようその方の不安
に寄り添って話を聞くことを心掛けま
した。

「それはびつくりしましたね。他に
お怪我はされていませんか。市内の病
院をできるだけあたってみますね。」
その時は結果的に市外の病院を紹介す
ることになったのですが、その方は最

後にこうおっしゃいました。「突然の
出来事だったので不安だったんです。
市内の病院をなどと無理言っすみま
せん。親切な対応ありがとうございま
した。」聞く力によって人に安心を与
えることができ、それがやりがいに変
わった大きな瞬間でした。

私たち消防が行く現場に不安でない
人など一人もいません。不穏な現代社
会、世界中で猛威を振るうまさに災害
と言ってもいい新型感染症。人は誰し
も不安を打ち明けたいのです。解決し
なくてもいい。無理に話さなくてもいい
。ただ共感し、寄り添うだけで人は
救われます。そんな思いやりのある消
防人に私はなりたい。聞く力で安心を
提供するために。



雲仙小地獄 土砂災害救助活動について

雲仙市消防団 小浜支団
支団長 中村 有二



令和三年八月に起きました、雲仙小
地獄地区土砂災害救助活動について、
ご報告させていただきます。

令和三年八月十三日未明に発生した
本災害は、私達の想像を遥かに超える
未曾有の自然災害になりました。その
原因となったのが九州北部に停滞した
線状降水帯でした。その雨量は十一
十二日の二日間、雲仙岳観測所で
五五二mmという、かつて経験したこと
のない雨量を記録しました。

特に十二日午後から夜半にかけての
雨量は、観測史上例のない四一五・五
mmを記録しています。これは八月平年
値雨量三一四・四mmの一・三倍の雨が一
日で降った事になります。そのような
中、私達小浜支団は緊急招集の指示を
受け、詳細不明のまま現場へ急行しま
した。八月十三日 午前五時頃のこと
です。

現場到着し、私達の目に入ったもの
は、辺りを埋め尽くす土砂と倒木、そ
して山から流れ落ちる川のような濁流
でした。普段の景色は一変し言葉は出
ませんでした。すぐさま対策本部が設

置され、付近住民の安否確認と情報収
集が行われました。結果、家族三名と
男性一名の二世帯 合計四名の安否不
明者がいる事が確認されました。

まもなく倒壊した家屋から男性一人
が発見され、二次災害の危険がある中、
消防署員の勇気ある救助活動が行われ
男性は救助に成功しました。続いて三
人家族の内、お母さん一名を発見し救
急搬送されましたが、残念ながら死
確認されました。その後、残り二名の
捜索の為、地元建設会社による重機の
導入、仮設トイレ等の設備が進められ
捜索活動と同時進行で、長期戦への準
備も着々と整って行きました。

そして我々消防団は地元雲仙の六分
団をはじめ、小浜支団全十二個分団が
警察、常備消防の後方支援部隊として
捜索に参加する事になりました。毎日
の捜索環境は厳しく、ひたすら降り続
く雨、ぬかるんだ足元、手作業による
掘削、運搬により体力は奪われ、過ぎ
行く時間と乏しい手掛かりは気力をも
疲れさせました。さらにはコロナ渦で
の対応と制限の中、捜索を続けるとい
う毎日でした。

そんな状況を助けてくれたのは、我
ら雲仙市消防団七支団の仲間でした。
六ヶ町六支団から応援協力の連絡を頂
きました。仲間の声は本当に嬉しく心
強く感じました。そこからは雲仙市消
防団総力を挙げての捜索活動に代わっ
ていきました。

その後もあらゆる方法を使って捜索
は続けられ、五日目に娘さん、そして



なかなか発見出来なかったお父さんを土砂の中から最後に救出し捜索完了。それは災害発生から十一日目の事でした。その間、警察、常備消防、自衛隊、ボランティア、消防団等、延べ二二〇〇人に登る大規模な救助活動になりました。このうち我ら雲仙市消防団七支団は延べ八〇八名が出動しました。

そして現場指揮本部の解散。結果は残念でしたが、捜索活動にかかわった皆さんの努力で、約束通りご家族にお返し出来て良かったと思えました。テントの中でも皆さんから「良かった、良かった」「お疲れ様でした。」「有難う」の言葉が多く聞かれ、安否不明者三名の発見と達成感から、言葉を詰まらせ涙する方ばかりでした。この厳

しい環境の中、この短期間で一つの目標に向け皆が行動し、努力し、結束し完遂する。これは凄い事だと感動しました。

今回の救助活動を振り返ると、消防団ってやっぱりカッコいいなと思いました。救助活動の一翼を担い、自分達の町は自分達で守り、助けるといふ強い気持ちで最後まで持ち続け、決して諦めなかった、この素人軍団は素晴らしいと思えました。さらには警察、消防に負けない 情報力、結束力もまた、消防団らしい『じげもん』の強さかなと思います。

これからまた雨の多い時期を迎えます。我々消防団は災害の発生を想定し地域防災の中核として、必要な対応を速やかに実行できるように備えることが大切と思います。今後も、常備消防や行政と連携しながら、これまでの経験を活かし消防団活動を行って行きたいと思えます。

最後に今回の救助活動の中で私たちはたくさんの人と出会い、私たちもまた、たくさんの人に助けていただきました。その全ての皆さんに感謝申し上げます。

令和五年度 理事会・評議員会情報

第一回理事会

(第一号議案)

令和四年度の事業報告が承認されました。

(五月十六日)

(第二号議案)

令和四年度の決算が承認されました。

(第三号議案)

令和五年度資金運用管理方針が承認されました。

(第四号議案)

第七十六回長崎県消防団大会について、原案どおり承認されました。

(第五号議案)

令和四年度長崎県消防殉職者慰霊祭の実施について、原案どおり承認されました。

(第六号議案)

第二十五回全国女性消防操法大会の出場チームについて、原案どおり承認されました。

(第七号議案)

第二十八回全国女性消防団員活性化石川大会について、原案どおり承認されました。

(第八号議案)

第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会の準備について、原案どおり承認されました。

(第九号議案)

顧問の選任について、原案どおり承認されました。

(第十号議案)

定時評議員会の招集について、原案どおり承認されました。

定時評議員会

(第一号議案)

令和四年度決算が承認されました。

(五月三十一日)

(第二号議案)

補欠評議員四名の選任が決議されました。

(第三号議案)

任期満了に伴う理事及び監事の選任について原案どおり承認されました。

(その他)

理事会決議事項ほか諸般の報告がなされました。

臨時理事会

(五月三十一日)

川上清記会長、鉄川恵一、平尾幸祐、谷口哲男、吉田利行各副会長、松尾健自常務理事が選任されました。

(第一号議案)

補欠理事選任に伴う評議員会を以て決議することが承認されました。

(第二号議案)

顧問の選任について承認されました。

第二回理事会

(十一月十一日)

(第一号議案及び第二号議案) 令和六年度事業計画案と収支予算案は、原案どおり承認されました。

(第三号議案)

令和六年度の消防協会運営費に係る市町負担金について、原案どおり承認されました。

(第四号議案)

第三十八回長崎県消防ポンプ操法大会について、承認されました。

(第五号議案)

第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会について、承認されました。

(その他)

第二十五回全国女性消防操法大会の結果等について報告がありました。

評議員会

(十一月十一日)

理事会で決議された事項のほか、諸般の報告がありました。

情報交流会

(十一月十一日)

理事、評議員参加のもと、情報交流会を開催しました。

消防団員指導員課程研修

令和五年十一月六日から七日まで、令和五年度消防団員指導員課程研修を県内六市一町の消防団から二十一名の参加により、長崎県消防学校において実施しました。

この研修は、日本消防協会の委託によるもので、消防団運営の活性化に資するため、消防学校の協力を得て、消防団の中に指導者となる指導員を養成し、地域防災の要である消防団員の充実強化を推進するものです。

訓練一日目は、県消防協会の鉄川副会長による実体験をもとにした「幹部心得」の講話のあと、訓練礼式、火災防ぎよ（ホース延長）については、学生主体で実施する中、通常の課程での訓練とは異なり、指導員役を付けて実

施し、訓練の冒頭に教えることの難しさを体感してもらうことで訓練に対する姿勢が変わり、より深く学ぼうとする姿が見えました。

さらに救助・救命活動においては、消防団員として、要救助者の救出時における搬送方法、要援護者の避難誘導要領について指導しました。

二日目は、座学で、「現場指揮・安全管理」「災害情報収集・伝達」を実施しました。座学では、現場指揮の必要性、安全管理の重要性及び指揮者としての役割を認識させるとともに「災害情報収集・伝達」では、消防団としての現場での情報収集の必要性を説明し、現場での運用に沿った形で実施し

ました。必要な情報を待つだけでなく、積極的に収集し、活動を優位に進めていくことが指揮者に求められると、意識付けを行いました。

午後は「火災防ぎよ（ポンプ運用）」を実施し、ポンプ車及び小型ポンプからの有圧及び無圧水利の部署要領、中継要領、筒先統制の要領などの指導をしました。本課程において、両方のポンプを時間をかけて指導する価値があったと思われれます。

この研修の実施により、多くの指導員を県内消防団に送り出すことができます。その成果が得られたものと思われれます。

長崎県市町消防団担当者会議

令和五年八月三日、長崎県市町消防団担当者会議を、県内二十市町から二十八名の参加のもと四年ぶりに開催しました。

会議では、日本消防協会から藤中次長、内山課長、村井主査の三名をお招きし、消防個人年金・福祉共済や火災共済について、説明を受けました。

また、県の木下主事及び県協会から事業の説明がありました。



第二十三回消防団幹部候補中央特別研修 (男性消防団員の部)

令和六年一月三十一日(水) 二月二日(金)

受講者 長崎市消防団 団員 東 光希

諫早市消防団 分団長 山口 庸介

諫早市消防団 部長 野口龍之介

第二十三回消防団幹部候補中央特別研修 (女性消防団員の部)

令和六年二月十四日(水) 二月十六日(金)

受講者 長崎市消防団 団員 谷口 弘子

長崎市消防団 団員 寶徳 里美

長崎市消防団 団員 寶徳 里美

令和 5 年 1 月～12 月の火災概況(速報値) [長崎県消防保安室調べ]

区分	令和 5 年 (A)	令和 4 年 (B)	増減	増減率 (%)
			A - B = C	C / B × 100
出火件数	437	507	△ 70	△ 13.8
(建物)	197	206	△ 9	△ 4.4
〈住宅〉	110	125	△ 15	△ 12.0
(林野)	25	34	△ 9	△ 26.5
(車両)	37	33	4	12.1
(船舶)	3	5	△ 2	△ 40.0
(その他)	175	228	△ 53	△ 23.2
焼損棟数	272	342	△ 70	△ 20.5
り災世帯数	151	240	△ 89	△ 37.1
り災人員	351	488	△ 137	△ 28.1
焼損面積 (建物 (㎡))	10,256	17,088	△ 6,832	△ 40.0
(林野 (a))	281	259	22	8.5
損害額 (千円)	575,859	740,192	△ 164,333	△ 22.2
死者	15	31	△ 16	△ 51.6
〈65歳以上〉	9	25	△ 16	△ 64.0
〈住宅〉放火自殺者を除く	7	20	△ 13	△ 65.0
負傷者	50	53	△ 3	△ 5.7

注) 「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

●出火原因 (ワースト5)

年度	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
令和 4 年	たき火 (165)	たばこ (29)	コンロ (27)	放火 (17)	電灯・電話等の配線 (17)
令和 5 年	たき火 (124)	たばこ (29)	コンロ (19)	電灯・電話等の配線 (17)	放火 (16)

注 1) 畑で枯れ草等を燃やす場合も「たき火」という。

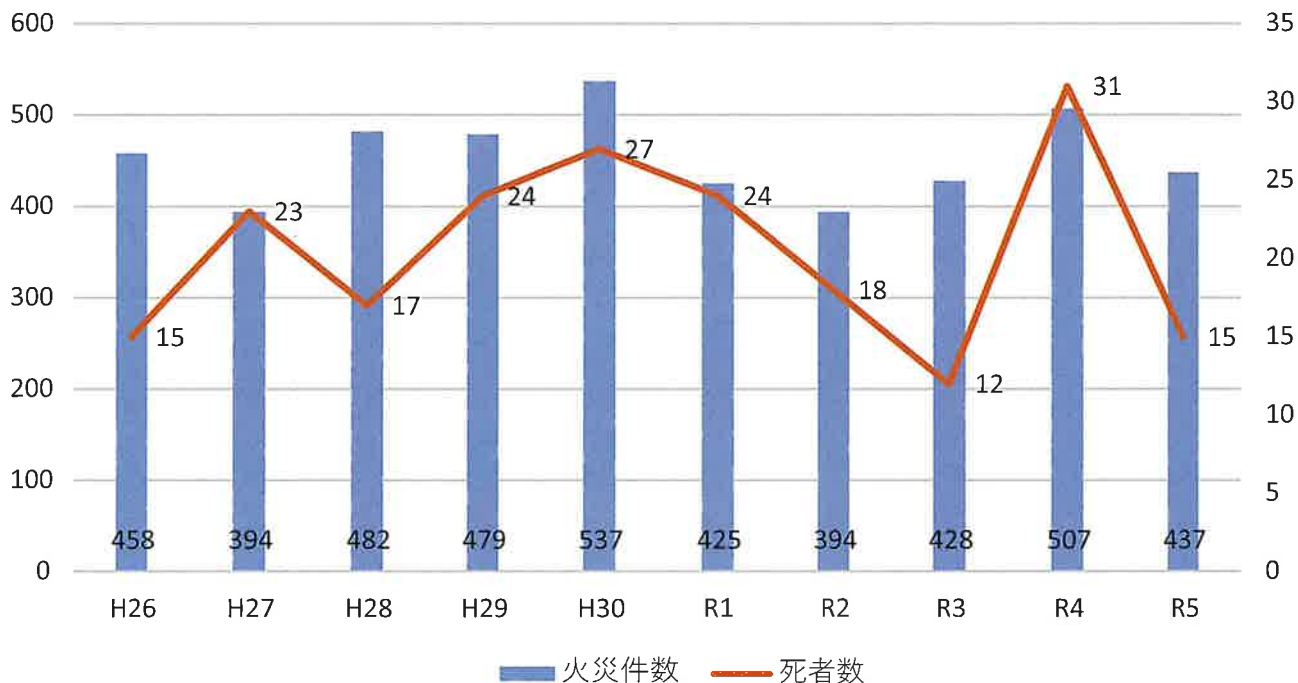
注 2) 「放火」には「放火の疑い」を含む。

令和 5 年中の火災件数 (月別／火災種別) (速報値)

月	合 計	火 災 件 数										焼損面積		火 災 損 害 額 (千円)	焼 損 棟 数	り 災 世 帯 数	り 災 人 員	負 傷 者	死 者		
		建 物 計							林 野	車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他							建 物 床 面 積 (㎡)	林 野 (a)
		住 宅 計			そ の 他																
1月	46	21	12	8		1	3	9	2	6	1		16	615	2	30,593	26	11	26	2	
2月	44	15	10	6	1	3	5	5	2			22	965	242	34,919	27	19	36	3	3	
3月	50	22	14	11		3	8	4	1			23	572	14	38,350	25	17	37	3	4	
4月	38	17	11	9		2	6	2	4			15	1,069	6	56,087	25	12	28	7	1	
5月	36	18	7	6		1	11	2	5			11	719	2	102,295	27	14	36	4	2	
6月	23	12	7	5		2	5		4			7	956		11,192	20	10	22	2		
7月	20	12	7	5		2	5			1		7	599		40,742	14	11	27	3		
8月	39	15	8	7		1	7	3	4			17	860	8	60,465	22	12	35	4		
9月	21	10	5	4		1	5		3			8	598		25,454	16	10	22	2		
10月	44	14	8	7		1	6	3	2			25	1,275	3	53,255	17	8	17	9	2	
11月	45	19	11	10		1	8	3	3	1		19	1,558	3	102,049	23	12	27	6	3	
12月	31	22	10	8		2	12	1	3			5	470	1	20,458	30	15	38	5		
計	437	197	110	86	2	22	87	25	37	3	0	175	10,256	281	575,859	272	151	351	50	15	

※ 「住宅火災」の件数は「住宅」、「併用住宅」、「共同住宅」の合計数となる。

令和5年中の火災件数と火災による死者数



令和6年度 主な行事予定

行事名	期 日	場 所
第1回理事会	5月16日(木)	長崎市
定時評議員会・臨時理事会	5月31日(金)	長崎市
第77回長崎県消防団大会	6月16日(日)	壱岐文化ホール
第38回長崎県消防ポンプ操法大会	8月4日(日)	長崎県消防学校
第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会	9月19日(木)~20日(金)	宇都宮市
第43回全国消防殉職者慰霊祭	10月3日(木)	ニッショーホール
第30回全国消防操法大会	10月12日(土)	宮城県利府町
消防団員指導員課程研修	11月5日(火)~6日(水)	長崎県消防学校
長崎県消防殉職者慰霊祭	11月9日(土)	長崎市
第2回理事会・評議員会	11月9日(土)	長崎市
消防出初式	1月上旬	県内一円
第50回消防団幹部特別研修	1月14日(火)~17日(金)	東京都
第24回消防団幹部候補中央特別研修(男性・女性)	2月5日~7日(金) 2月19日~21日(金)	東京都
第77回日本消防協会定例表彰式	3月7日(金)	東京都

消防団員数

(人)

消防団名	消防団員数	消防団名	消防団員数
長崎市	2,399	雲仙市	1,426
佐世保市	1,476	南島原市	1,214
島原市	586	長与町	279
諫早市	1,400	時津町	225
大村市	553	東彼杵町	330
平戸市	986	川棚町	238
松浦市	783	波佐見町	270
対馬市	1,329	小値賀町	134
壱岐市	805	佐々町	170
五島市	1,004	新上五島町	780
西海市	1,093	合 計	17,480

(令和5年10月1日現在)



画 岳下 空来(たけした そら)さん(平戸市立生月小学校六年) 公益財団法人長崎県消防協会令和五年度長崎県防火ポスターコンクール最優秀賞